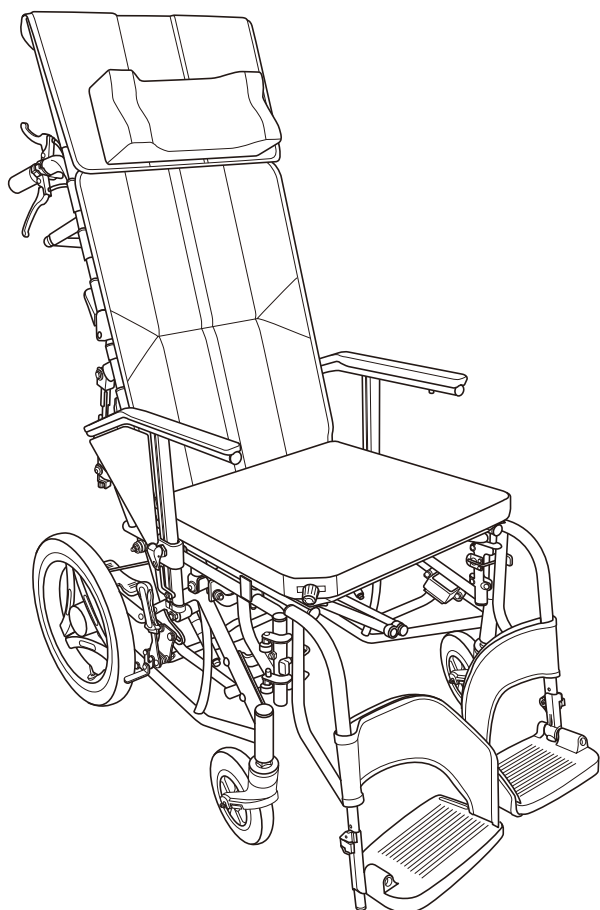


CRT-SG-WR

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
車いすの開きかた／たたみかた	9
シートの取り付け・取り外し	11
乗り降りのしかた	12
アームサポートの高さ調節	13
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	14
転倒防止装置の取り付け・取り外し	15
各部の調節のしかた	16
クッションの空気圧調節	16
フットサポートの高さ調節	17
シートの角度調節(ティルト機能)	18
バックサポートの角度調節 (リクライニング機構)	18
バックサポートの張り具合調節	19
キャストのメンテナンス	20
使用上のご注意	21
保守・点検	21
お手入れ・保管について	21
走行上のご注意	22
段の上がりかた	22
困った時には	23
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ・車いす本体 1台
- ・バックサポートシート 1ケ
- ・工具（スパナ2ケ 六角レンチ5mm・4mm・3mm各1ケ）
- ・枕 1ケ
- ・座クッション 1ケ
- ・取扱説明書（本書）
- ・保証書

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。

- ・P.9 車いすの開きかた／たたみかた
- ・P.11 シートの取り付け・取り外し
- ・P.15 転倒防止装置の取り付け・取り外し
- ・P.19 バックサポートの張り具合調節

使用目的・特徴

本製品は手動式の車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。
リクライニング機構とティルト機構をを備えた、介助者が操作する座位変換形介助用手動車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 危険



スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



通常は、必ず転倒防止装置が機能するように取り付けて使用してください。
後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。



エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下ってください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。



乗り降りの際は、フットサポートに乗らないでください。
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。



リクライニングを倒した状態では、車いすの上で上体を起こしたり、立ち上がらないでください。
車いすの重心バランスが崩れて、転倒・転落の恐れがあります。

⚠ 警告



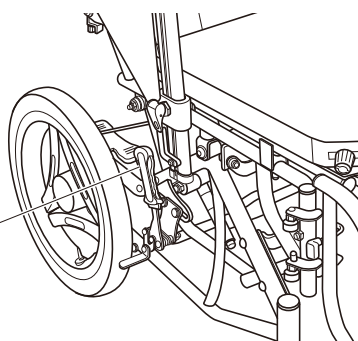
走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。



ティルト・リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。
転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。



乗り降りの際は、駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



駐車用ブレーキ
レバー



乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



ティルト・リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。



乗り降りの際は、シートを水平の位置にもどしてください。



ティルト・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないと、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。



ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

警告

- 

制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
- 

アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。
- 

フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。
- 

クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- 

バックサポートを後ろに倒した状態で背面アウターシートには腰かけないでください。転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。
- 

走行中は、アームサポートの高さ調節、フット・レッグサポートの開閉、ティルト・リクライニング操作等をしないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

乗り降りの際は、スイングアウト部に身体や衣類を引っ掛けないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

乗り降りの際は、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。
- 

タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- 

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを入れたり、吊り下げたりしないでください。過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⚠ 注意

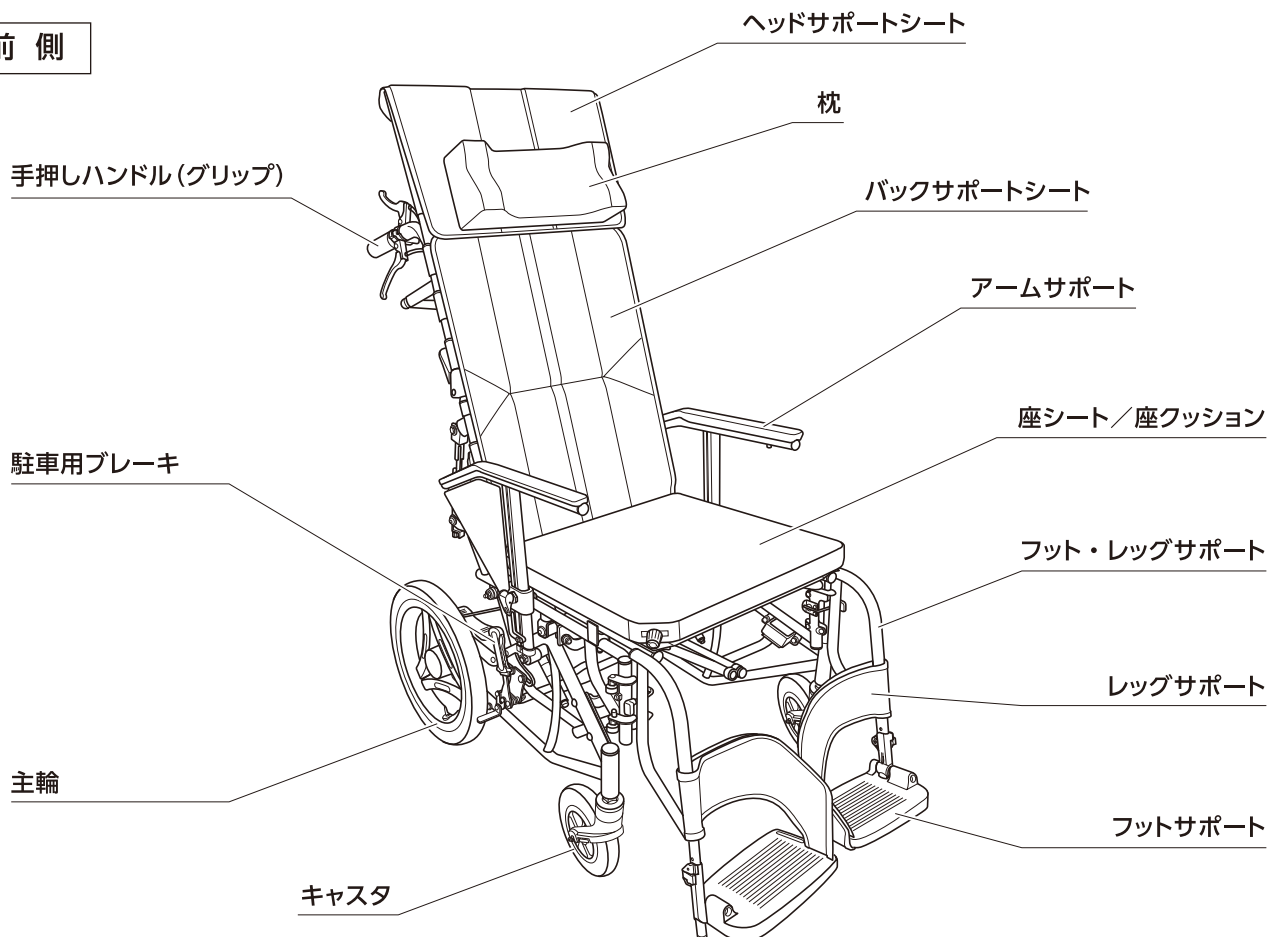
-  この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
-  最大体重(積載物含む)は100kgです。体重制限を守って使用してください。
-  シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。


-  使用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行わないでください。背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
-  背折れジョイント、アームサポートフレーム、フット・レッグサポート、ティルト・リクライニングの可動部等に指や身体をはさまないように注意してください。
-  走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。事故やけがにつながる恐れがあります。
-  走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
-  フットサポートは足で上げないでください。けがをする恐れがあります。
-  シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
-  段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。車いすの破損や故障の原因となります。
-  車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。
-  介助者は、ティルト・リクライニング操作をする前に「倒します」「起します」と声をかけてください。また操作するときは、使用者の体重が押し手にかかりますのでしっかりと支えてください。
-  使用する前に主輪、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
-  アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。
-  暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。また、ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

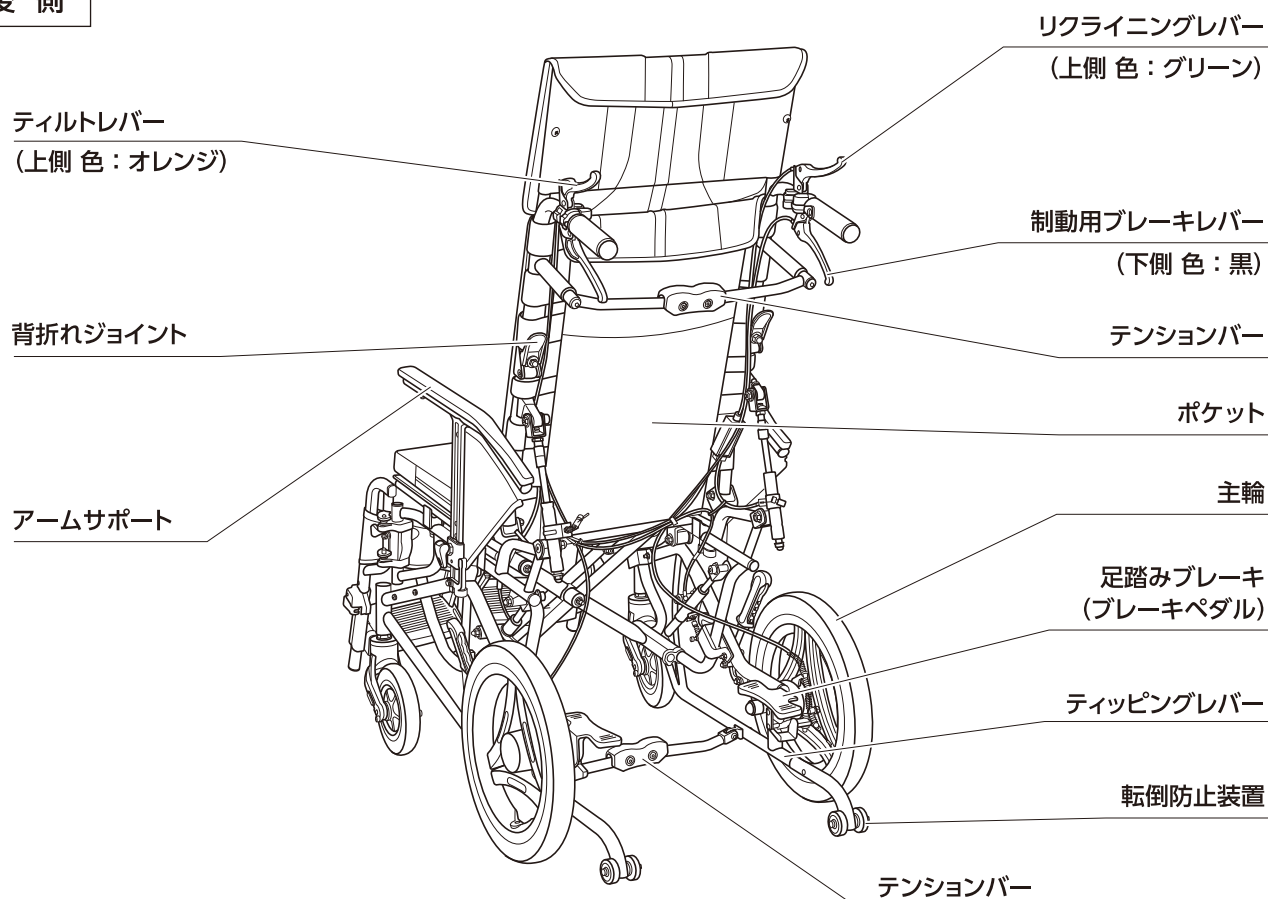

-  フットサポートの下には足を入れないでください。足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
-  操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。
-  バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。
-  サイドガードをむやみに引っ張ったり、力を加えたりしないでください。過度な力を加えると、サイドガードが破れたり車いすの破損や故障の原因となります。
-  車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。

各部のなまえ

前側



後側



使いかた

ブレーキのかけかた

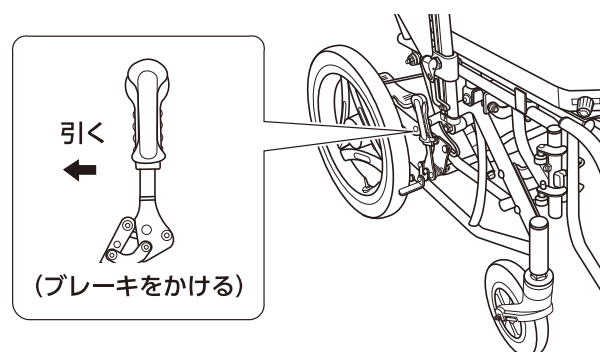
⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者もしくは使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。

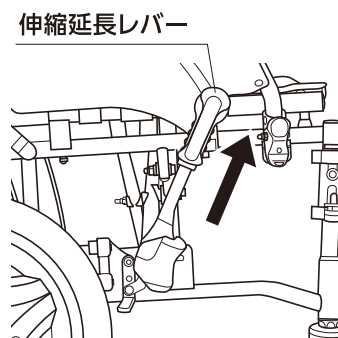
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● スライド延長ブレーキについて

伸縮延長レバーを伸ばすと軽い力でブレーキを操作することができます。長さを変更する際は、レバーがカチッと音がしてロックされるまでしっかりと上へ引き上げてください。

元に戻す際は、手のひらにて下に押し込むようにしてください。

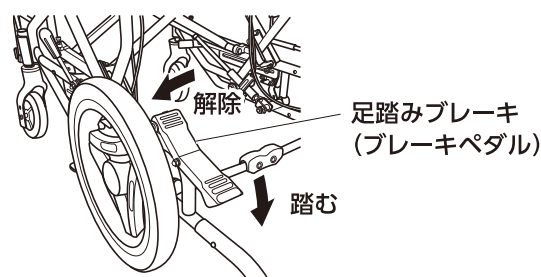


● 足踏みブレーキの使いかた

介助者が、左右の足踏みブレーキ（ブレーキペダル）を踏み込みます。

（駐車用ブレーキがかかります。）

ブレーキペダル前方で足を前に押し出すと、ブレーキペダルが元の位置にもどり、ブレーキが解除されます。



⚠ 注意

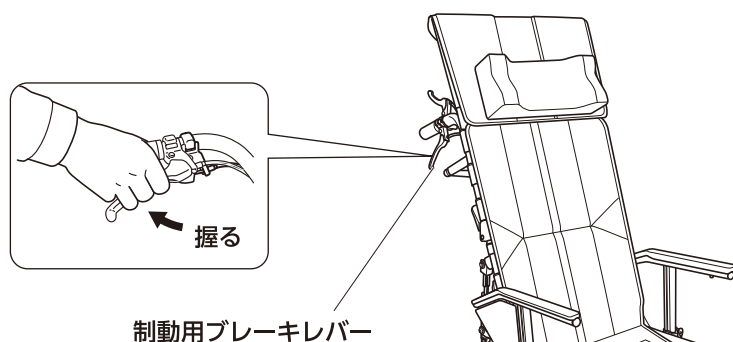
本製品は、駐車用ブレーキと足踏みブレーキが独立した（連動していない）構造になっています。車いすを移動、操作する際は、駐車用ブレーキと足踏みブレーキの両方を解除してください。

● 制動用ブレーキのかけかた

⚠ 危険	・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。 ・ 雨の日などの路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。十分に注意したうえで操作してください。
-------------	--

⚠ 警告	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。片側のみかけると、車いすが転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
-------------	---

介助者が、左右の手押しハンドル下にある黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



⚠ 注意	ブレーキワイヤーは、安全のために定期的に点検してください。 (P.21「消耗品、交換部品の確認」参照)
-------------	--

車いすの開きかた／たたみかた

△ 注意

- ・シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。
- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
- ・背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないように注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。
- ・後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないように注意してください。背折れジョイントのロックが外れて後方へ姿勢をくずす恐れがあります。

● 開きかた

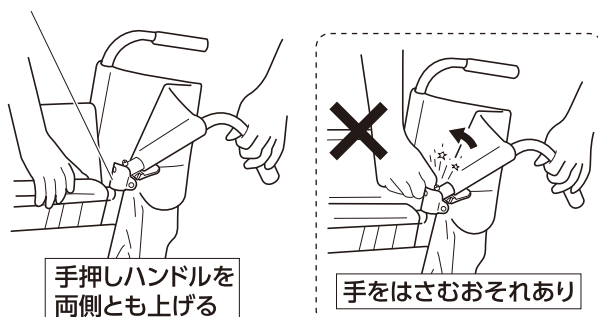
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

＊背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

＊このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

背折れジョイント

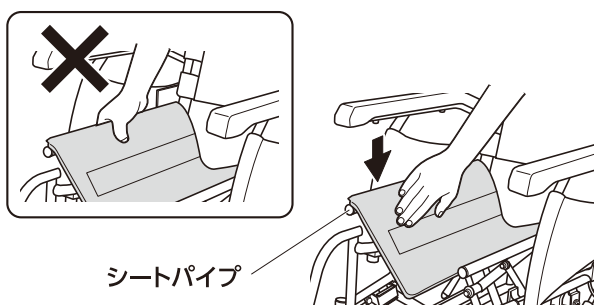


3 手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体の後方部を浮かせながら左右に開きます。

4 シートパイプの両端を手の平で押し下げます。

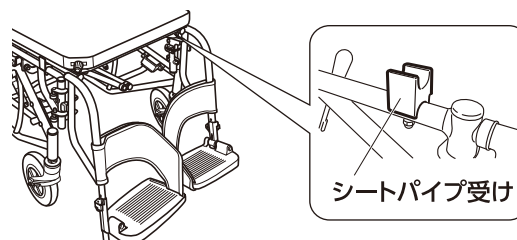
＊シートパイプを握らないでください。

＊シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。



5 シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認します。

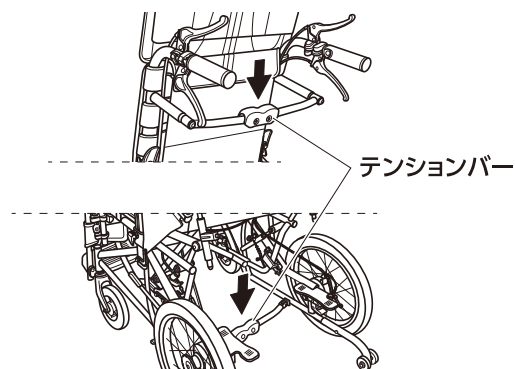
＊しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押すときは、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。



＊シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

＊左右のフレームがねじれていると、シートパイプをはめにくい場合があります。そのときは、ティルトレバーを操作して左右のフレームのねじれを直してください。

6 手押しハンドルおよび駆動輪(主輪)内側のテンションバーの中央を持ち、ロックするまで押し下げます。



＊テンションバーは足で踏まないでください。破損する恐れがあります。

7 バックサポートシートと、座クッションを取り付けます。(P.11「シートの取り付け・取り外し」参照)

● たたみかた

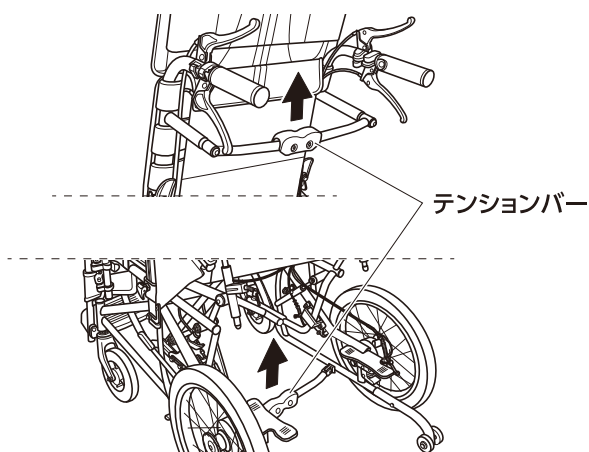
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 ティルト、リクライニングを元の角度に戻します。

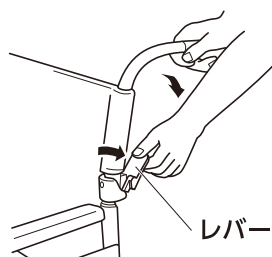
3 座クッションと枕を取り外します。

*バックサポートシートを取り外すとさらにコンパクトに折りたたむことができます。

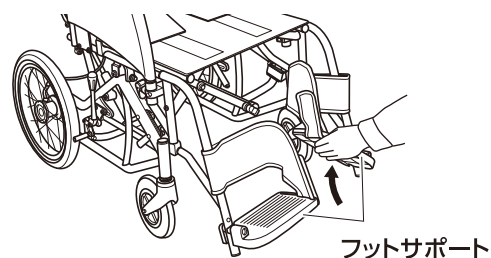
4 手押しハンドルおよび主輪内側のテンションバーを上を持ち上げ、少し折り曲げます。



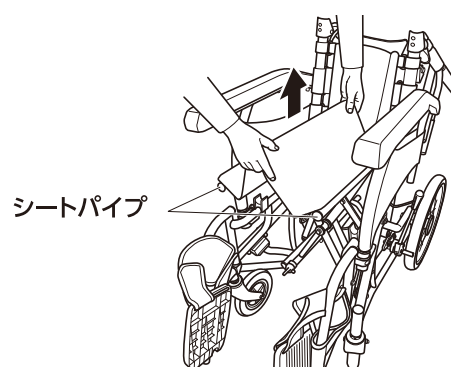
5 背折れジョイントのレバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



6 フットサポートを両側とも上げます。

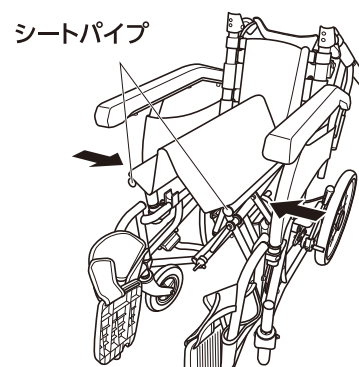


7 座シートを下図のように持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



8 シートパイプを両側から押し、座シートを折りたたみます。

*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



シートの取り付け・取り外し

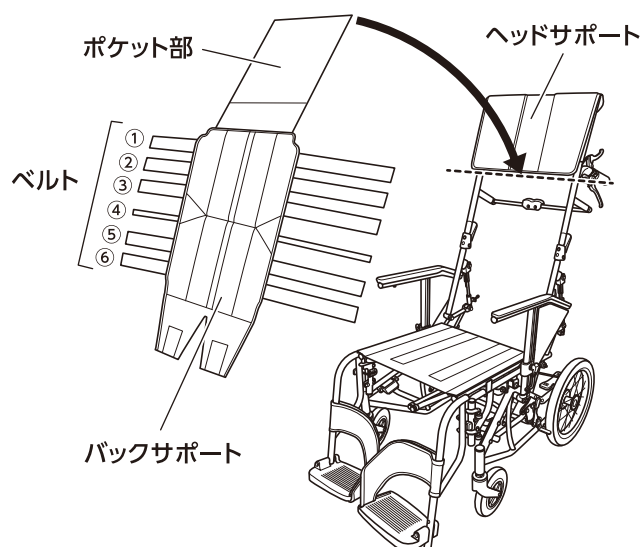
⚠ 注意

- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

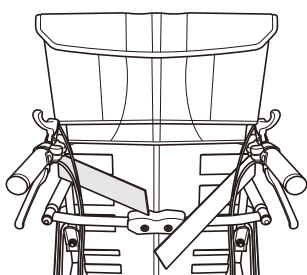
● バックサポートの取り付けかた

(出荷時は車いすとは別で梱包されています。必ず取り付けて使用してください。)

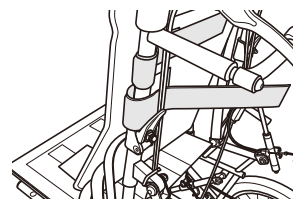
- 1** バックサポートのポケット部を後ろにし、ヘッドサポートの下から通します。
ポケット部は上にめくりあげておきます。



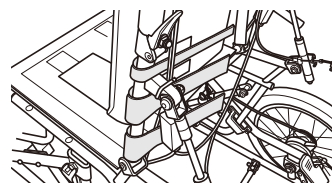
- 2** ベルト①をテンションバー上部の背パイプに巻きつけます。



- 3** ベルト②③を背折れジョイント上部の背パイプに巻きつけます。



- 4** ベルト④を背折れジョイント下部に、ベルト⑤⑥を背パイプ下部に巻きつけます。



- 5** 左右のベルト先端を引っ張って、張りを調節します。
(P.19「バックサポートの張り具合調節」参照)

- 6** ポケット部をバックサポートに貼り合わせます。

⚠ 注意

各ベルトを巻き付ける際、ブレーキ／ティルト／リクライニングの各ワイヤーと一緒に巻かないようにしてください。



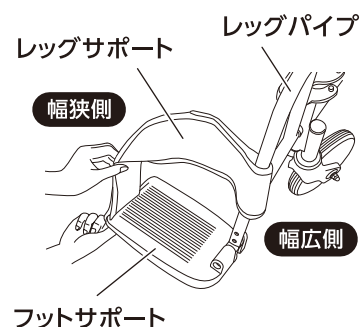
● レッグサポートの取り付けかた

- 1** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグサポートパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

- 2** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。

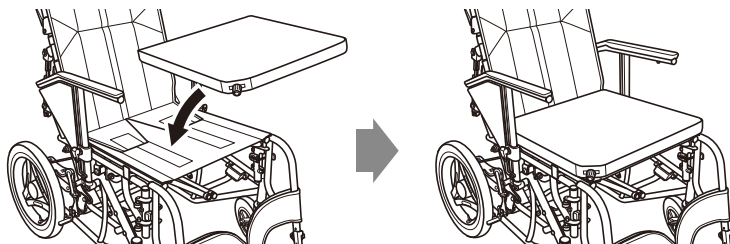
- 3** 穴に通したレッグサポートの端を折り返して、面ファスナーを貼り合わせます。

- 4** 反対側も同様の作業を行います。



● 座クッションの取り付けかた

座クッションを車いすの座シート表面の面ファスナーと貼り合わせます。



乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・ ティルトさせた状態で乗り降りしないでください。転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 乗り降りの際は、シートを水平の位置にもどして、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだして、大変危険です。
- ・ 車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・ 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

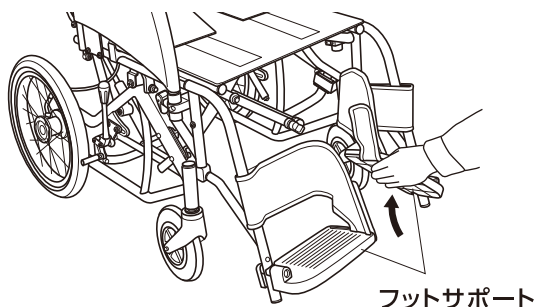
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 ティルトしている場合は、シート角度を水平にもどします。

3 フットサポートを両側とも上げます。

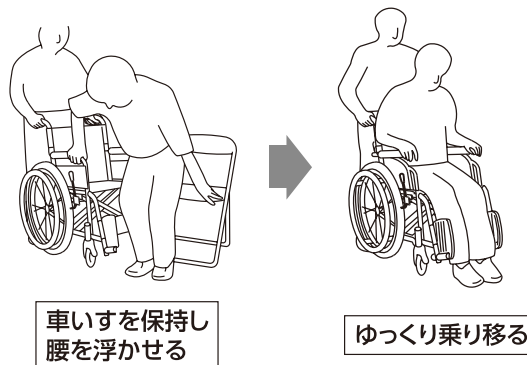
* フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。

* 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



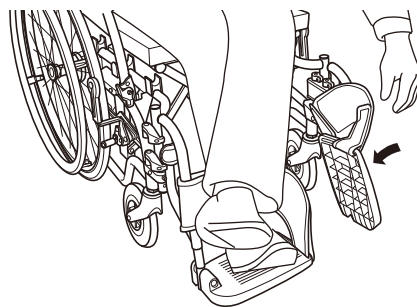
4 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）」（P.14 参照）や、「アームサポートの高さ調節」（P.13 参照）を行います。

5 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



6 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）」や、アームサポートの高さ調節を行っていた場合は、元に戻します。

7 フットサポートを下げて両足を乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

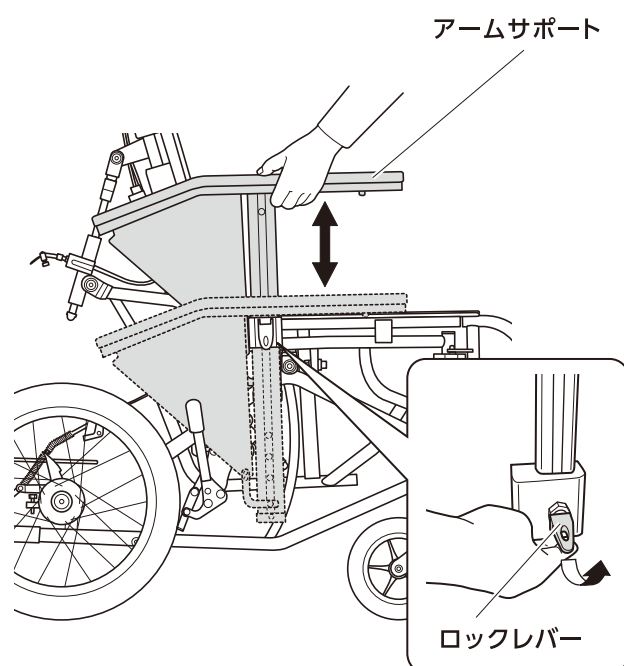
アームサポートの高さ調節

乗り降りの妨げにならないように、アームサポートを下げることができます。

⚠ 注意	・ 高さ調節は、使用者の身体および衣服がアームサポートよりも内側にあることを確認してから行ってください。 ・ フレームの可動部には身体および衣服をはさまないように注意してください。 ・ 高さ調節をした後は、必ずアームサポートがロックされていることを確認してください。 ・ アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
-------------	--

- 1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2** アームサポートを支えながら、アームサポート外側のロックレバーを引き上げてロックを解除します。
- 3** アームサポートを上下させて高さを調節します。
(調整は4段階)
*調節はアームサポートの中心を持って行ってください。
- 4** 希望の高さに調節したら、ロックレバーを押し下げます。

*調節後、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。



⚠ 注意	レバーを解除しているときは、アームサポートが下がる恐れがあります。その際、アームサポートと車いすのフレームの間に指をはさまないように注意してください。
-------------	--

フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉させたり、取り外すことができます。車いすへの乗り降りの際は、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

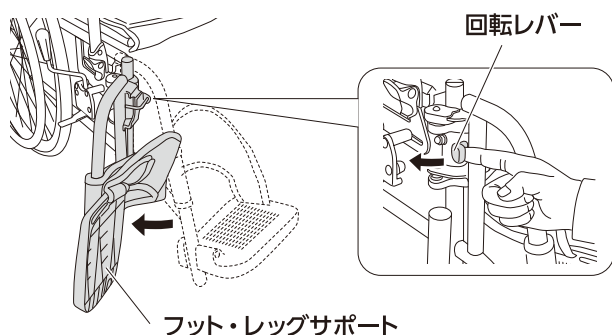
⚠ 警告	・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。 ・乗り降りの際は、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。 ・フット・レッグサポートの開閉時、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。 ・フット・レッグサポートを開いた状態で、車いすの操作をしないでください。 ・フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。
-------------	---

⚠ 注意	フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、使用者の脚をフットサポートから降ろした状態で行ってください。
-------------	---

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

※フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。部品が変形して故障の原因となります。



● 閉じかた

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

※フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

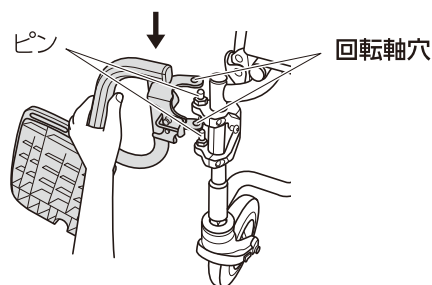
※フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 本体フレームのピン側に、フット・レッグサポート側の回転軸穴を合わせて、垂直に上からはめ込みます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

※フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

※フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

転倒防止装置の取り付け・取り外し

⚠ 注意

操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

●取り付けかた

転倒防止装置（2本）を、図の向きにしてティップingleレバーに差し込み、ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。

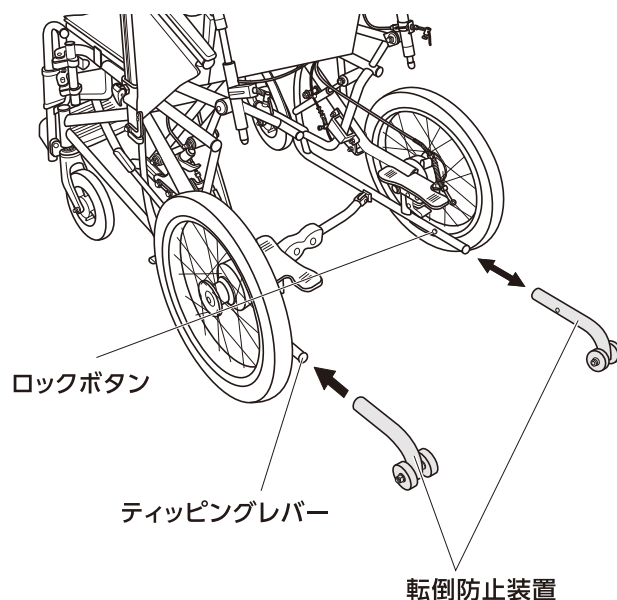
*転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止装置を図のようにセットした状態で使用してください。

●取り外しかた

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を引き抜いてください。

●転倒防止装置の向きの変更

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を上^{180°}回転させてください。ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。



各部の調節のしかた

⚠ 警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

クッションの空気圧調節

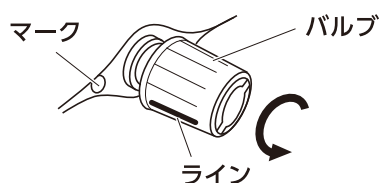
座クッションをお好みの空気圧に調節することができます。

⚠ 注意 ・調節は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

● バルブについて

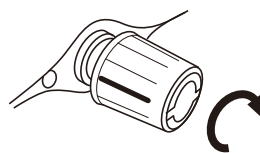
【ロック状態】

バルブを反時計回りに回して、マークとラインの位置が合った状態。通常はこの位置で使います。



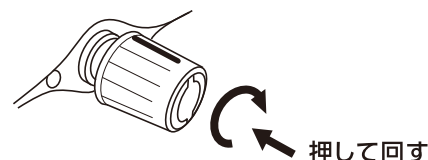
【調節状態】

空気の調節をするときに使います。



【開放状態】

バルブを押しながら時計回りに回すと、着座していない状態では空気が入り、着座している状態では空気が抜けていきます。

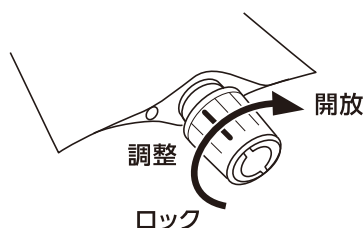


⚠ 注意

- ・ご使用時は、調節以外の目的で【調節状態】、【開放状態】のままにしないでください。空気が抜けて底付きの原因になります。
- ・クッションに過度な負担をかけないでください。クッションが破損（パンク）する恐れがあります。
- ・完全にふくらんだ状態で使用すると、クッションの効果を十分に発揮させる事ができません。使用者の状態に合わせて空気圧を調節してから使用してください。
- ・気温・気圧など環境の変化によって、クッション内の空気圧が変化することがあります。ご使用前には都度空気圧の調節を行ってください。
- ・飛行機内など、急激な気圧の変化の影響で、クッション内の空気が膨張することがあります。飛行機への搭乗前には空気を抜いておく。またはバルブを【開放状態】にしておき、使用前に空気量の確認をしてください。

● 調節のしかた

- 1 バルブを【開放状態】にして、空気を入れます。完全にふくらんだ（空気音がしなくなった）ら、バルブを【ロック状態】にします。



- 2 車いすにクッションをとりつけます。（「P.12 座クッションの取り付けかた」参照）

- 3 使用者が車いすに乗った状態で、バルブを【調節状態】にします。

- 4 バルブを時計回りに少し回すと、クッション内の空気が抜け、クッションが沈みます。バルブから手を離すと【調節状態】に戻ります。少しずつ空気を抜きながら調節します。

- 5 クッションがお好みの厚さになったら、バルブを【ロック状態】にしてください。

* 再度調節する際は、車いすから降りて、手順1からやり直してください。

フットサポートの高さ調節

● ワンプッシュ（スライド）式フットサポート

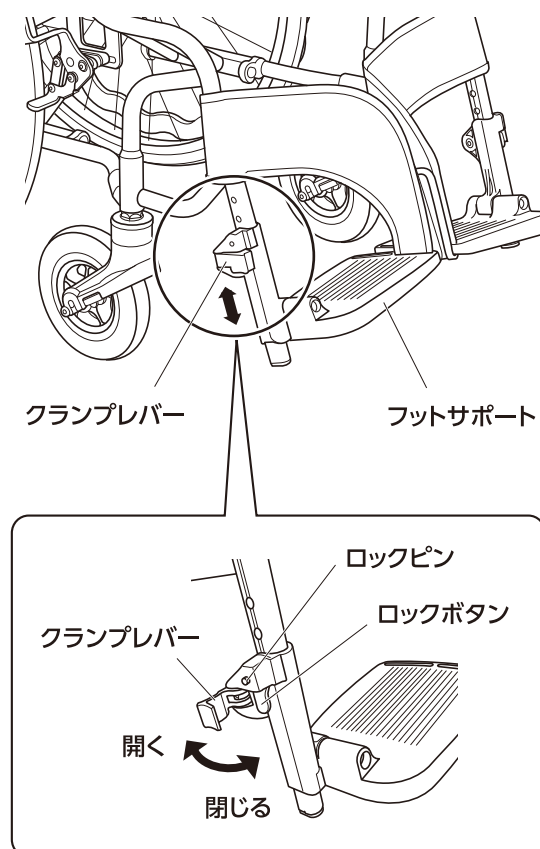
使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。
20mm間隔で4段階の高さに調節することができます。

⚠ 警告

- ・ 高さ調節をした後は、必ず固定されていることを確認してください。
- ・ ロックピンが出ている状態では使用しないでください。足を乗せた際にフットサポートが動いたり、脱落してけがをする恐れがあります。
- ・ 必ずロックピンがレッグサポートの調節穴に入っているか確認してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 クランプレバーを開きます。
- 3 ロックボタンを押すと、ロックピンが飛び出します。
この状態で高さ調節ができるようになります。
- 4 ロックボタンを押しながら、伸ばしたい（または縮めたい）方向へフットサポートを少し動かします。
フットサポートが動いたらロックボタンから手を離し、引き続き伸ばす（または縮める）と、カチッと音がしてロックピンがレッグサポートの穴に入り、フットサポートが固定されます。
希望の高さになるまで、これを繰り返します。
- 5 希望の高さに調節したら、フットサポートを軽く上下に動かして、ロックピンが確実に調節穴に入っていることを確認してください。
- 6 ロックピンが出ていないことを確認して、クランプレバーを元の位置に戻します。

* 調節後、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。



シートの角度調節（ティルト機能）



△注意

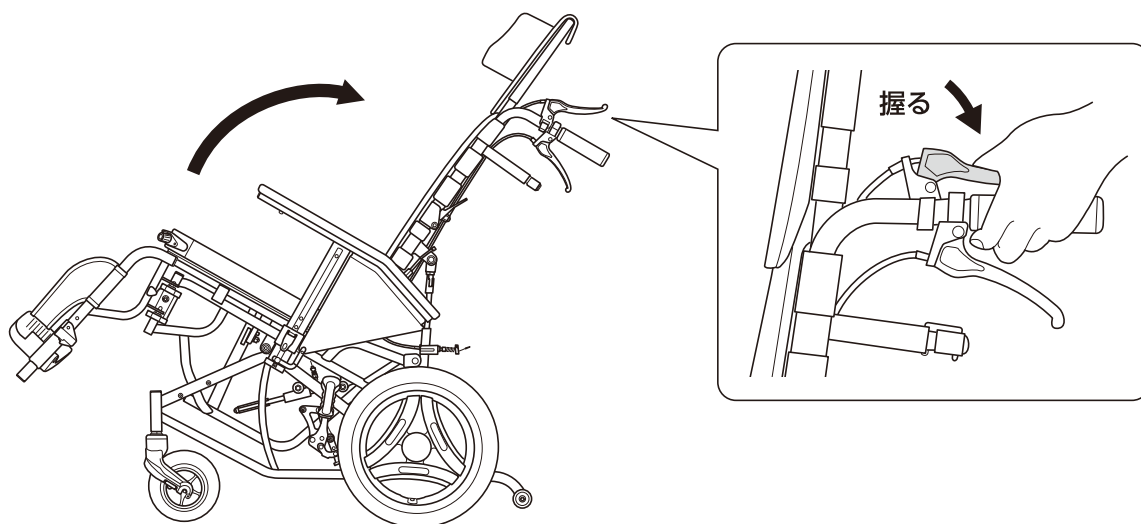
- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかりと支えてください。
- ・ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルグリップ上側のレバーを握ります。

（マークが付いたオレンジ色のグリップです。）

シートの角度が2～30度の範囲で調節可能になります。



3 お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを放します。

シート角度が固定されます。

4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態で使用してください。

バックサポートの角度調節（リクライニング機能）



△注意

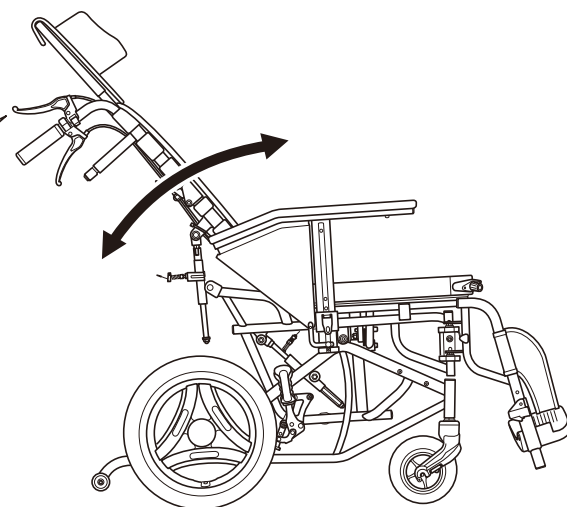
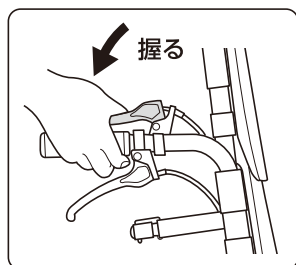
- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかりと支えてください。
- ・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルグリップ上側のレバーを握ります。

(マークが付いた緑色のグリップです。)

バックサポートの角度が
95～130度の範囲で
調節可能になります。



3 お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを放します。

バックサポート角度が固定されます。

4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

* 自走型の場合、ティルト・リクライニング角度によっては車輪がアームサポート上面より飛び出す場合があります。その場合は車輪が体に接触しないよう、アームサポートの高さを調節してください。(P.13「アームサポートの高さ調節」参照)

* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態で使用してください。

バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しています。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットして、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

△注意

- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

バックサポートの張り具合をチェックして、必要に応じて調節してください。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪の駐車用ブレーキをかけます。

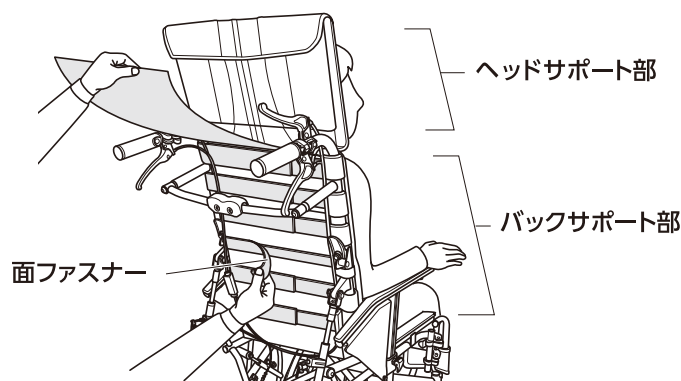
2 背アウターシートのポケット部をめくり上げます。

3 面ファスナーをはがして、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

* 手でバックサポートを押して、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

4 背アウターシート部のポケットを元に戻します。

* 過度の調節(ゆるめすぎ・締めすぎ)はかえって姿勢を崩すことになります。十分注意して行ってください。



キャストのメンテナンス

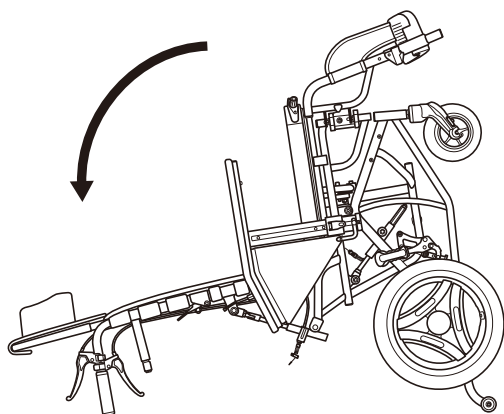
本製品はキャストの車輪を工具を使用することなく取り外すことができます。
車軸にからまった異物を取り除く際に便利です。

● 車輪の外しかた

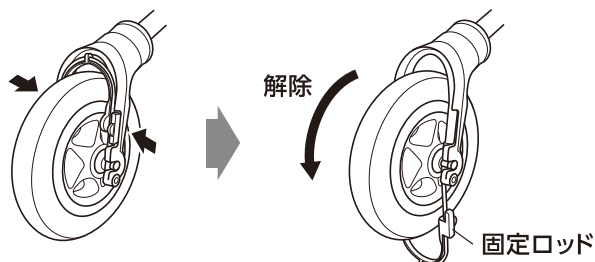
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 車いすを後方に倒します。

*まわりに人や障害物がないことを確認して、
ゆっくり動かしてください。

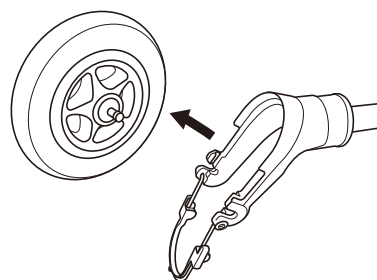


3 キャスタフォークの固定ロッドを両側から指ではさみ、矢印の方向に動かしてロックを解除します。



4 車輪を上引っ張って、車輪を外します。

*キャストフォークや車輪の軸に異物があるときは、
この時点で取り除いてください。

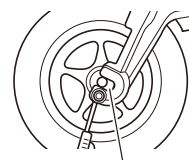
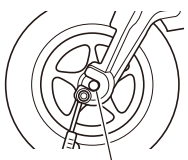
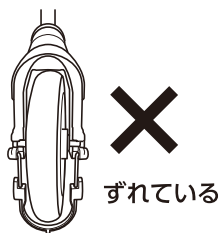
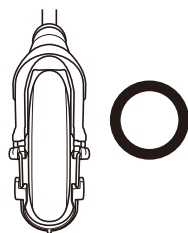


● 車輪の取り付けかた

1 キャスタフォークの溝に、車輪を挿入します。

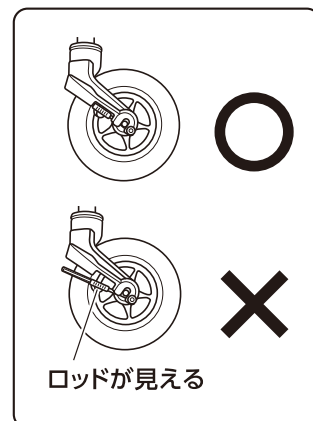
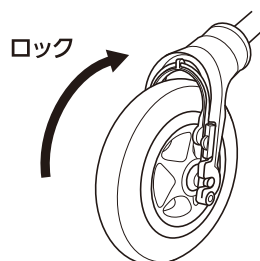
車輪の軸が、キャストフォークの溝へ
確実に奥まで入っていることを確認し
てください。

⚠ 警告



2 固定ロッドをもとの位置に戻してロックします。

*車輪を軽く動かして、固定ロッドで確実に固定
されていることを確認してください。



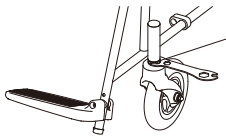
3 車いすを元の位置に戻します。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

△警告	キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪（主輪）・ブレーキ・各調節部等は定期的に点検してください。 ゆるんでいるときは増し締めをしてください。	 キャストの 旋回軸
-----	---	---

- ・車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作して、ブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックして、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突など事故につながる恐れがあります。
-----	--

- ・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へご連絡ください。
- ・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こして、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期	品 名	交 換 時 期
駆動輪（主輪）	タイヤの表面に溝がなくなったとき。 タイヤにひび割れなどが見られる場合。	シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。 しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。	ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートの汚れは、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによって、シート生地に毛羽が付着することがあります。毛羽が付着した際は、衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除いてください。

● 樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

△注意	・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。 ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。
-----	--

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

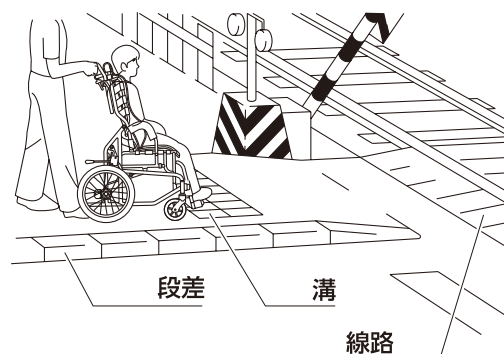
● 保管・収納について

- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

△注意	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。
-----	--

走行上のご注意

- ・車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう十分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せずにまっすぐ通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

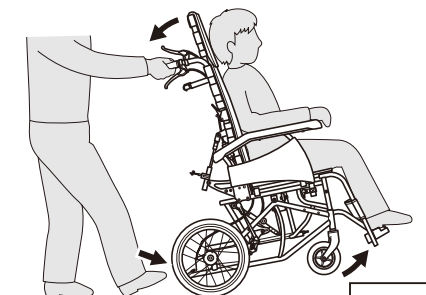


段の上がりかた

△警告

- ・ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

- 1** ティルト・リクライニングしている場合は、シート角度を水平に戻します。
- 2** 転倒防止装置を取り外します。（P.15「転倒防止装置の取り付け・取り外し」参照）
- 3** 足元のティッピングレバーを前方に押し出すように踏み込みながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



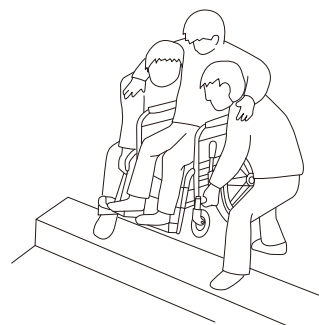
- 4** 主輪を段に当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

- 5** 上がり終えたら、転倒防止装置を取り付けます。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにします。



困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確認点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	キャスト、主輪の計4輪がきちんと接地していますか。	シートの角度調節を元の位置に戻すなど、左右にずれがないよう調節してください。改善が見られない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車用ブレーキが効かない。	主輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが主輪にきちんと当たってますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
制動用ブレーキレバーを放しても車いすが動かない。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにして使用してください。
	駐車用ブレーキ、もしくは足踏みブレーキがかけられた（ロックされた）状態になっていませんか。	駐車用ブレーキと足踏みブレーキの両方をそれぞれ解除してください。本製品は駐車用ブレーキと足踏みブレーキが独立した（連動していない）構造になっています。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにして使用してください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすを折りたたむことができない。	車いす後方の上下にあるテンションバーを折り曲げていますか。	テンションバーを折り曲げていない場合は折り曲げてください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
リクライニング（ティルト）の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

仕 様

単位mm

	機種名	測定項目	機種名
	CRT-SG-WR		CRT-SG-WR
フレーム材料	アルミ	駆動輪(主輪)径 (inch)	14PU (黒)
シート材料	ポリエステル ナイロン PVC	キャスト径 (inch)	6
アームサポートタイプ	上下式	前座高 ※1	470 (435)
アームサポート	ウレタン	後座高 ※1	455 (420)
サイドガード	ポリエステル	シート奥行	400
グリップ	PVC	シート幅	400
バックサポート	テンション調整	バックサポート高 ※1	765 (800)
背折れ	あり レバー式	フットサポート・シート間距離 ※1	355/375/395/415 (320/340/360/380)
フット・レッグサポートタイプ	開閉式 (スイングアウト)	アームサポート高 ※1	0/145/165/185/205 (35/180/200/220/240)
フットサポート	軽量スライド式	全高	1220
キャスト	ソフトフォーミング	全幅	560
タイヤ	ハイポリマータイヤ	全長	1150
制動用ブレーキ	あり サーボブレーキ	折りたたみ全高	780
ハンドリム	なし	折りたたみ全幅	320
駐車用ブレーキ	引き掛け式トルブブレーキ 足踏みブレーキ	折りたたみ全長 ※2	900 (1120)
		重量 (kg)	18.2

※1 () 内は座クッションを外したときの寸法です。 ※2 () 内はフット・レッグサポート取り付け時の寸法です。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況を連絡してください。
- ・ 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保 証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をお読みください。
- ・ 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄につきましては、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元


株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号